

第6回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査： 調査結果の概要及び男女別・年齢階層別比較

長野 誠治

公益財団法人 年金シニアプラン総合研究機構 主任研究員

【 記 事 情 報 】

掲載誌：年金研究 No.7 pp. 128-153 ISSN 2189-969X

オンライン掲載日：2017年6月21日

掲載ホームページ：<http://www.nensoken.or.jp/nenkinkenkyu/>

DOI：http://doi.org/10.20739/nenkinkenkyu.7.0_128

要旨

(1) 仕事の満足度について

仕事の内容、休暇の取りやすさ、家庭と仕事の両立などの満足度はおおむね高かった。賃金については若い年齢階層を中心に不満が強く、この影響もあって仕事全体の満足度はやや低めであった。女性の方が男性よりも仕事の満足度は全般的に高かった。

(2) 自由時間について

自由時間は全体では十分に確保されており、年齢階層が上がるにつれて、その程度も高まる。自由時間の使い方は、「インターネットやSNSなど」「ひとりで趣味・スポーツ・学習など」「家族との団らんや家庭サービス」の順であった。男女を問わず、自由時間をひとりまたは家族ですごすスタイルが主流であった。

(3) 社会活動について

地域活動やボランティアなどの社会活動に参加しているのは23%程度で、不参加の理由は「興味がない、関心がない」「時間がない」が多い。今後の参加意向については、「条件によっては参加してもよい」「参加するつもりはない」の回答がともに4割ずつであった。

(4) 生活の満足度について

健康については全般的に満足度が高く、年齢階層が上がるにつれて高まる傾向がみられる。経済的ゆとりは若年齢階層で「欠けている」が相対的に多く、全般的にもゆとりは乏しい状態である。精神的ゆとりは若年齢階層で「欠けている」、高年齢階層で「満たされている」と2極化の傾向がみられる。

(5) 生きがいについて

現在、生きがいを持っている人の割合は全体の44.5%と半数にも満たなかった。男女ともに年齢階層が高くなると生きがいを持っている人の割合が増える傾向にある。生きがいを感じる対象は「趣味」「家族・家庭」「ひとりで気ままにすごすこと」などで、「仕事」と回答した割合

は全体の 15.8%にすぎず、男性の 35 歳以上 54 歳以下の働き盛りでも 25%程度にとどまった。

(6) 退職後の生活について

退職後の生活資金の原資は「本人の公的年金」「預貯金の取りくずし」「退職金」「就労による収入」「配偶者の公的年金」の順となっており、「本人の公的年金」は 72.6%の回答者を占めた。現職退職後の仕事については、第 1 位が「できれば仕事を継続したい」41.6%で、第 2 位の「退職とともに職業生活から引退したい」23.0%を大きく上回った。仕事の継続意向のある人のうち「元気なうちはいつまでも」続けたいという回答は 74.1%と、大多数を占めた。

(7) 配偶者の退職について

退職後の生活設計を夫婦で話し合っているかについては、全体では「まったくない」が過半数を占めた。ただし、55 歳以上 64 歳以下では低下し、「たまにある」55.5%、「よくある」10.1%となっており、「まったくない」は 34.5%にすぎない。配偶者に現職退職後も「フルタイムの就労」を望む専業主婦は 33.3%、「パートタイムの就労」28.6%、「趣味やボランティアなどの生きがいを探す」25.7%と、配偶者には長く働き続けてほしいという希望が強い。

(8) 住まいについて

将来の住まいについては「自分または配偶者の持ち家に住む」が 70.4%と大半を占めた。「自立型住居（有料老人ホーム、有料介護施設など）に住む」は 65 歳以上 74 歳以下の女性で 1 番多かったが、それでも 9.7%にとどまった。

(9) 暮らし向きについて

現在の自身の暮らしについては、「普通」44.0%、「少し苦しい」24.4%であった。男性の方が女性よりも「苦しい」と感じており、特に若年齢階層で「苦しい」と感じている度合いが強い。

(10) 介護について

「過去に介護の経験あり」「現在介護中」の合計は全体の 23.2%で、女性の方がその割合は高い。介護負担の内容は、「精神的負担」「身体的負担」がいずれも 60%以上を占めた。自分自身の介護については、男性よりも女性の方が不安感は強い。配偶者の介護についても同様である。自分自身の介護を任せる先について、男性は「配偶者」が多い一方、女性は「介護施設に入る」が多かった。

1 はじめに

本稿は、「第 6 回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」の結果を男女別及び年齢階層別に比較して、その特徴を記述したものである。

考察対象者は、第 2 号被保険者¹に専業主婦²を含む全体であり、そのうち第 2 号被保険者のみを別途、切り分けた。そして、男女別³及び年齢階層別⁴に 8 区分し、仕事、生活、生きがいについて比較を行った。

¹ 第 2 号被保険者には、元第 2 号被保険者で現在、厚生年金受給者である人も含む。

² 専業主婦は、第 3 号被保険者及び元第 3 号被保険者で現在、年金受給者、の両者を指す。

³ 第 3 号被保険者には専業主婦のほかにも専業主夫もいるが、男性についてはサンプル数が確保できないため、第 3 号被保険者は女性（専業主婦）のみとした。

⁴ 年齢階層は、35 歳以上 44 歳以下、45 歳以上 54 歳以下、55 歳以上 64 歳以下、65 歳以上 74 歳以下、の 10 歳刻みの 4 区分とした。

2 仕事の満足度について

2.1 仕事の内容

現在の仕事の内容について、どのように感じているか（Q10_1）を尋ねたところ、調査対象全体の満足度判断DI⁵が 20.2 ポイントであり、総じて満足度は高かった。

男性⁶よりも女性の満足度がおおむね高い。また、男性の満足度は 35 歳以上 54 歳以下で相対的に低かった。男女ともに年齢階層が高くなるにつれて、満足度は高くなる傾向がみられた。

Q10_1 現在のお仕事や職場について、どのように感じていますか。それぞれについてお答えください。/仕事の内容（SA）

	全体	第2号								
		男性 35～44歳	男性 45～54歳	男性 55～64歳	男性 65～74歳	女性 35～44歳	女性 45～54歳	女性 55～64歳	女性 65～74歳	
n =	3,177	739	634	426	208	330	276	134	46	
1	とても満足している	11.2%	8.4%	9.1%	11.3%	20.2%	10.0%	12.7%	6.7%	19.6%
2	やや満足している	40.3%	38.4%	33.6%	42.5%	44.7%	41.8%	39.1%	44.0%	41.3%
3	どちらともいえない	31.3%	31.5%	34.7%	30.8%	29.3%	29.7%	30.1%	38.8%	30.4%
4	やや不満である	11.8%	13.1%	16.1%	11.0%	5.3%	13.0%	11.6%	9.7%	6.5%
5	とても不満である	5.3%	8.5%	6.5%	4.5%	0.5%	5.5%	6.5%	0.7%	2.2%
DI		20.2	12.5	11.4	22.5	39.4	18.9	19.9	23.1	34.8

2.2 賃金

現在の賃金について、どのように感じているか（Q10_5）を尋ねたところ、調査対象者全体の満足度判断 DI は -12.4 ポイントであり、不満が総じて強かった。

男女ともに若い年齢階層で不満が強くなる傾向がみられた。逆に 65 歳以上 74 歳以下では、男女ともに小幅ではあるがプラスとなり、どちらかといえば「満足している」人の方が多かった。高齢者の場合、賃金の多寡よりも働けることへの満足感が上回っていることが影響しているようである。

Q10_5 現在のお仕事や職場について、どのように感じていますか。それぞれについてお答えください。/賃金（SA）

	全体	第2号								
		男性 35～44歳	男性 45～54歳	男性 55～64歳	男性 65～74歳	女性 35～44歳	女性 45～54歳	女性 55～64歳	女性 65～74歳	
n =	3,177	739	634	426	208	330	276	134	46	
1	とても満足している	5.7%	4.6%	5.4%	5.9%	6.7%	5.2%	6.2%	4.5%	8.7%
2	やや満足している	21.4%	18.3%	21.0%	21.6%	22.6%	23.0%	18.1%	19.4%	34.8%
3	どちらともいえない	31.9%	29.0%	32.0%	34.3%	43.3%	26.1%	32.2%	27.6%	26.1%
4	やや不満である	24.6%	25.3%	24.6%	24.6%	20.2%	28.2%	24.6%	33.6%	21.7%
5	とても不満である	16.5%	22.9%	17.0%	13.6%	7.2%	17.6%	18.8%	14.9%	8.7%
DI		-12.4	-21.8	-13.5	-9.3	0.7	-15.0	-15.9	-17.5	6.5

⁵ 本稿の満足度判断 DI は次のように算出。「とても満足している」回答割合 + 「やや満足している」回答割合 * 0.5 - 「やや不満である」回答割合 * 0.5 - 「とても不満である」回答割合。

⁶ 以下、特段の断りがない限り、男性及び女性は第 2 号被保険者（厚生年金受給者を含む）の男性及び女性を指す。

2.3 休暇の取りやすさ

現在の仕事や職場における休暇の取りやすさについて、どのように感じているか(Q10_7)を尋ねたところ、調査対象者全体の満足度判断 DI は 18.2 ポイントであり、満足度は全体として高かった。

男性の 65 歳以上 74 歳以下の満足度が際立って高いことや、35 歳以上 44 歳以下で女性の方が男性よりも満足度が高いことが注目される。

Q10_7 現在のお仕事や職場について、どのように感じていますか。それぞれについてお答えください。/休暇の取りやすさ (SA)

	全体	第2号								
		男性 35~44歳	男性 45~54歳	男性 55~64歳	男性 65~74歳	女性 35~44歳	女性 45~54歳	女性 55~64歳	女性 65~74歳	
n =	3,177	739	634	426	208	330	276	134	46	
1	とても満足している	16.7%	13.7%	12.1%	16.4%	23.6%	18.2%	20.7%	14.2%	17.4%
2	やや満足している	32.8%	33.3%	32.2%	32.6%	36.1%	35.8%	26.4%	32.8%	32.6%
3	どちらともいえない	29.4%	27.1%	33.3%	31.0%	31.3%	23.6%	26.8%	32.1%	34.8%
4	やや不満である	12.4%	13.9%	13.6%	13.1%	7.2%	12.4%	13.0%	15.7%	6.5%
5	とても不満である	8.7%	12.0%	8.8%	6.8%	1.9%	10.0%	13.0%	5.2%	8.7%
DI		18.2	11.3	12.6	19.4	36.1	19.8	14.3	17.5	21.7

2.4 家庭と仕事の両立

現在の仕事や職場における家庭と仕事の両立について、どのように感じているか(Q10_8)を尋ねたところ、調査対象者全体の満足度判断 DI は 22.5 ポイントであり、満足度は総じて高かった。

男女別では女性の方が男性に比べて全年齢階層にわたって満足度は高かった。一方、男性の 35 歳以上 54 歳以下の年齢階層で満足度判断 DI は 10 ポイント前後にとどまり、女性や男性の他の年齢階層に比べて満足度はプラスであるものの、それほど高くなかった。

Q10_8 現在のお仕事や職場について、どのように感じていますか。それぞれについてお答えください。/家庭と仕事の両立 (SA)

	全体	第2号								
		男性 35~44歳	男性 45~54歳	男性 55~64歳	男性 65~74歳	女性 35~44歳	女性 45~54歳	女性 55~64歳	女性 65~74歳	
n =	3,177	739	634	426	208	330	276	134	46	
1	とても満足している	13.9%	8.7%	8.7%	14.3%	21.6%	13.6%	15.6%	14.2%	23.9%
2	やや満足している	35.6%	31.4%	29.5%	35.7%	41.8%	37.6%	36.6%	41.8%	47.8%
3	どちらともいえない	37.0%	39.9%	45.1%	39.7%	33.2%	34.8%	34.4%	32.1%	26.1%
4	やや不満である	8.8%	11.2%	12.5%	6.3%	1.9%	10.3%	8.0%	11.2%	2.2%
5	とても不満である	4.8%	8.8%	4.3%	4.0%	1.4%	3.6%	5.4%	0.7%	0.0%
DI		22.5	9.9	12.9	25.0	40.1	23.6	24.5	28.7	46.7

2.5 仕事全体として

現在の仕事全体について、どのように感じているか(Q10_12)を尋ねたところ、調査対象者全体の満足度判断 DI は 10.3 ポイントであり、満足度は総じて高かった。

そのなかにあつて 35 歳以上 44 歳以下の男性の満足度判断 DI は 0.5 ポイントにとどまり、他の年齢階層や女性に比べて満足度はほとんどないという結果になった。これは、前述の賃金に対する不満が強いことが影響しているものと思われる。

Q10_12 現在のお仕事や職場について、どのように感じていますか。それぞれについてお答えください。/全体として (SA)

	全体	第2号								
		男性 35~44歳	男性 45~54歳	男性 55~64歳	男性 65~74歳	女性 35~44歳	女性 45~54歳	女性 55~64歳	女性 65~74歳	
n =	3,177	739	634	426	208	330	276	134	46	
1	とても満足している	6.5%	4.6%	5.7%	7.0%	11.1%	7.0%	5.8%	5.2%	15.2%
2	やや満足している	33.1%	29.4%	29.3%	35.0%	41.3%	33.3%	28.6%	32.8%	45.7%
3	どちらともいえない	40.7%	39.6%	40.7%	39.9%	42.8%	36.7%	46.4%	43.3%	28.3%
4	やや不満である	13.6%	15.2%	17.7%	14.1%	4.8%	17.0%	13.4%	17.2%	10.9%
5	とても不満である	6.0%	11.2%	6.6%	4.0%	0.0%	6.1%	5.8%	1.5%	0.0%
DI	10.3	0.5	4.9	13.5	29.3	9.1	7.6	11.6	32.6	

3 自由時間について

3.1 自由時間の有無

自由時間が十分にあるか (Q12_1) を尋ねたところ、調査対象者全体の自由時間保有度判断DI⁷は 50.0 ポイントであり、自由時間は十分確保されているという結果であった。

男女ともに年齢階層が上がるにつれて「十分ある」が増加し、男性の 65 歳以上 74 歳以下では 68.1%、女性 59.8%と高い水準になり、自由時間保有度判断 DI も 80 ポイント前後に達した。定年退職や完全リタイアして、十分な自由時間を確保できているためであろう。

Q12_1 あなたが日頃、自由に使える時間は十分にあると思いますか。(SA)

	全体	第2号								
		男性 35~44歳	男性 45~54歳	男性 55~64歳	男性 65~74歳	女性 35~44歳	女性 45~54歳	女性 55~64歳	女性 65~74歳	
n =	5,000	749	644	501	617	400	347	243	259	
1	十分にある	33.5%	11.9%	14.8%	29.9%	68.1%	18.0%	25.1%	34.6%	59.8%
2	まあまあ	44.5%	52.9%	54.7%	49.1%	28.2%	46.8%	49.0%	44.4%	32.8%
3	不十分である	18.5%	29.9%	27.6%	19.4%	3.1%	28.8%	20.7%	18.5%	4.6%
4	まったくない	3.5%	5.3%	3.0%	1.6%	0.6%	6.5%	5.2%	2.5%	2.7%
DI	50.0	28.7	31.2	46.4	81.3	33.5	44.4	50.0	76.6	

3.2 自由時間の使い方

自由時間を主にどんなことに使っているか (Q12_2、複数回答) を尋ねたところ、調査対象者全体では「インターネットや SNS など」45.2%、「ひとりで趣味・スポーツ・学習

⁷ 本稿の自由時間保有度判断 DI は次のように算出。「十分にある」回答割合 + 「まあまあ」回答割合 * 0.5 - 「不十分である」回答割合 * 0.5 - 「まったくない」回答割合。

など」38.2%「家族との団らんや家庭サービス」30.9%の順であった。

男女ともにすべての年齢階層で「インターネットやSNSなど」「ひとりで趣味・スポーツ・学習など」が上位2位を占めた。

なお当調査はネットを用いたアンケートであるため、「インターネットやSNSなど」の回答が増えるバイアスがあることには留意が必要である。

Q12_2 日頃の自由時間を、主にどんなことに使っていますか。(MA)

	全体	第2号							
		男性 35~44歳	男性 45~54歳	男性 55~64歳	男性 65~74歳	女性 35~44歳	女性 45~54歳	女性 55~64歳	女性 65~74歳
n =	4,826	749	644	501	617	374	329	237	252
1 仕事仲間とのプライベートなつきあい	4.4%	6.9%	5.9%	6.2%	4.5%	4.8%	6.1%	3.4%	2.0%
2 仕事に関する勉強や残務整理	4.6%	8.1%	8.1%	7.2%	3.4%	3.7%	4.3%	3.0%	1.6%
3 テレビ・ゴロ寝やパチンコ、酒など	27.3%	29.6%	34.0%	28.7%	22.7%	28.9%	25.2%	25.3%	22.2%
4 ひとりで趣味・スポーツ・学習など	38.2%	38.2%	35.2%	41.5%	37.9%	37.4%	45.6%	37.6%	34.1%
5 仲間と趣味・スポーツなど	12.9%	9.7%	10.4%	10.6%	20.6%	7.2%	9.1%	15.2%	22.2%
6 インターネットやSNSなど	45.2%	38.9%	40.8%	46.5%	57.9%	38.0%	44.7%	43.5%	46.4%
7 個人的な友人・仲間とのつきあい	19.5%	12.7%	11.0%	11.4%	14.7%	24.1%	24.6%	28.7%	33.3%
8 行楽・ドライブなど	14.3%	14.3%	19.7%	21.0%	17.0%	11.5%	10.3%	11.8%	12.3%
9 庭いじりや家事など家庭内のこと	24.0%	9.1%	10.2%	16.6%	31.3%	14.7%	21.3%	30.4%	42.1%
10 家族との団らんや家庭サービス	30.9%	34.0%	29.3%	26.7%	24.3%	36.1%	24.0%	27.0%	27.4%
11 近隣の人とのつきあいや地域の用事	4.0%	0.7%	0.8%	3.0%	10.4%	1.9%	2.1%	7.6%	7.5%
12 その他	2.4%	1.1%	0.5%	2.4%	5.0%	1.1%	2.1%	2.5%	4.0%
13 特に何もしない	5.0%	5.1%	7.3%	5.6%	3.9%	4.5%	3.3%	4.2%	2.8%

4 社会活動について

4.1 社会活動への参加の有無

地域活動やボランティア活動など、何か社会に役立つ活動に参加しているか(Q13)を尋ねたところ、調査対象者全体では「参加していない」が62.5%、「以前参加したことがある」が14.3%で、両者を合計した「現在、参加していない」が76.8%にのぼった。

65歳以上74歳以下の男性では「定期的に参加している」が19.9%、女性では17.4%と、他の年齢階層が1ケタ台にとどまっているのに対して参加率が相対的に高い。

Q13 あなたは、地域活動やボランティア活動など、何か社会に役立つ活動に参加されていますか。団体活動でも個人の活動でもかまいません。(SA)

	全体	第2号							
		男性 35~44歳	男性 45~54歳	男性 55~64歳	男性 65~74歳	女性 35~44歳	女性 45~54歳	女性 55~64歳	女性 65~74歳
n =	5,000	749	644	501	617	400	347	243	259
1 定期的に参加している	8.3%	4.8%	5.9%	5.6%	19.9%	2.3%	4.9%	9.1%	17.4%
2 ととき参加している	14.9%	15.1%	16.0%	15.6%	17.0%	12.0%	11.8%	14.0%	13.9%
3 以前に参加したことがある	14.3%	11.5%	15.2%	14.8%	10.5%	13.3%	15.9%	17.3%	14.7%
4 参加していない	62.5%	68.6%	62.9%	64.1%	52.5%	72.5%	67.4%	59.7%	54.1%

4.2 社会活動の活動分野

社会活動の活動分野(Q13_1、複数回答)を尋ねたところ、調査対象者全体では「地域の生

活環境を守る活動」40.3%、「地域のイベントや“村おこし”の活動」24.7%の順が多かった。

男性は全年齢階層で「地域の生活環境を守る活動」が第1位だったのに対して、女性は「児童や青少年活動の世話役としての活動」が35歳以上44歳以下で第1位となり、45歳以上54歳以下でも第2位となった。また、女性の55歳以上74歳以下では「障がい者・高齢者の手助けなどの社会福祉活動」が20%以上であったことが注目される。

Q13_1 それは、どのような分野の活動ですか。(MA)

	全体	第2号							
		男性 35～44歳	男性 45～54歳	男性 55～64歳	男性 65～74歳	女性 35～44歳	女性 45～54歳	女性 55～64歳	女性 65～74歳
n =	1875	235	239	180	293	110	113	98	119
1 地域の生活環境を守る活動	40.3%	40.0%	42.7%	49.4%	52.2%	27.3%	33.6%	32.7%	32.8%
2 地域のイベントや“村おこし”の活動	24.7%	25.1%	28.0%	30.0%	28.7%	21.8%	31.0%	24.5%	22.7%
3 趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動	14.8%	15.3%	15.9%	17.8%	16.4%	12.7%	10.6%	7.1%	17.6%
4 児童や青少年活動の世話役としての活動	15.7%	17.0%	13.8%	10.0%	8.5%	30.0%	22.1%	18.4%	4.2%
5 地域の文化財や伝統を守る活動	7.3%	8.9%	8.4%	10.0%	9.2%	8.2%	1.8%	10.2%	5.0%
6 消費者活動や生活向上のための活動	4.3%	5.5%	4.2%	3.9%	5.1%	4.5%	6.2%	2.0%	7.6%
7 障がい者・高齢者の手助けなどの社会福祉活動	12.1%	8.5%	10.9%	10.6%	9.9%	8.2%	11.5%	20.4%	21.0%
8 行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動	5.0%	3.4%	5.9%	3.3%	12.6%	2.7%	0.9%	6.1%	5.0%
9 自然保護や環境保全の活動	9.2%	10.2%	9.2%	13.9%	13.0%	9.1%	7.1%	9.2%	7.6%
10 国際交流に関する活動	4.8%	3.0%	2.9%	6.1%	2.0%	3.6%	8.0%	9.2%	5.9%
11 その他	7.1%	4.7%	4.6%	6.7%	9.6%	5.5%	5.3%	11.2%	8.4%

4.3 社会活動への参加理由

社会活動に参加している人に参加理由(Q13_2、複数回答)を尋ねたところ、調査対象者全体では「地域や社会に貢献したい」44.5%、「身近な人に誘われた」22.1%、「自分の知識や経験を活かしたい」19.8%の順であった。

男女別に比較すると、男性は「地域や社会に貢献したい」「社会人として当然と思った」が高い一方、女性は「自分の知識や経験を活かしたい」「身近な人に誘われた」が高かった。男性は地元や社会への貢献といった使命感から、女性は自分自身を活かしたいという願望や友人・知人との関係から社会活動に参加する傾向がみられる。

Q13_2 活動に参加した理由は何ですか。(MA)

	全体	第2号							
		男性 35～44歳	男性 45～54歳	男性 55～64歳	男性 65～74歳	女性 35～44歳	女性 45～54歳	女性 55～64歳	女性 65～74歳
n =	1875	235	239	180	293	110	113	98	119
1 地域や社会に貢献したい	44.5%	43.4%	42.3%	54.4%	58.7%	34.5%	35.4%	43.9%	43.7%
2 自分の知識や経験を活かしたい	19.8%	21.3%	17.2%	18.9%	19.8%	19.1%	20.4%	24.5%	24.4%
3 社会への見聞を広げたい	13.0%	20.9%	11.7%	6.1%	13.3%	21.8%	12.4%	18.4%	12.6%
4 友人や仲間を増やしたい	15.0%	16.6%	14.2%	11.1%	17.4%	13.6%	17.7%	15.3%	21.0%
5 生活にはりあいを持たせたい	12.2%	8.1%	7.9%	9.4%	20.8%	10.0%	8.8%	12.2%	16.8%
6 身近な人に誘われた	22.1%	15.3%	23.8%	20.0%	20.1%	16.4%	23.9%	23.5%	27.7%
7 会社の勤めや命令	1.8%	3.4%	5.4%	0.6%	0.3%	1.8%	0.9%	1.0%	0.0%
8 社会人として当然と思った	13.4%	8.9%	14.2%	19.4%	21.5%	4.5%	8.0%	11.2%	16.0%
9 何となく	11.6%	14.0%	11.7%	12.2%	6.1%	11.8%	13.3%	11.2%	8.4%
10 その他	4.7%	1.3%	2.1%	3.3%	7.5%	4.5%	6.2%	6.1%	3.4%

4.4 社会活動に参加していない理由

現在社会活動に参加していない人に不参加の理由（Q13_3、複数回答）を尋ねたところ、調査対象者全体では「興味がない、関心がない」39.4%、「時間がない」26.4%の順であった。

男性のすべての年齢階層及び女性の35歳以上44歳以下を除くすべての年齢階層で「興味がない、関心がない」が第1位であった。唯一、女性の35歳以上44歳以下では「時間がない」が第1位であった。男女ともに65歳以上74歳以下の高年齢層では「健康や体力に自信がない」が多く、また男性の同年齢層では「何から始めるか、きっかけがつかめない」も多かった。

Q13_3 現在参加していない理由は何ですか。(MA)

		全体	第2号							
			男性 35～44歳	男性 45～54歳	男性 55～64歳	男性 65～74歳	女性 35～44歳	女性 45～54歳	女性 55～64歳	女性 65～74歳
n =		3839	600	503	395	389	343	289	187	178
1	時間がない	26.4%	31.3%	33.4%	27.6%	11.6%	38.8%	31.1%	25.1%	16.3%
2	経済的余裕がない	12.8%	16.3%	12.7%	12.9%	8.2%	18.7%	17.6%	14.4%	6.7%
3	精神的なゆとりがない	17.6%	23.7%	19.9%	14.4%	6.9%	26.5%	24.2%	14.4%	7.9%
4	健康や体力に自信がない	14.2%	7.0%	6.6%	11.1%	19.5%	9.9%	15.9%	19.3%	24.2%
5	家族など周囲の理解や協力が得られない	1.6%	2.0%	1.4%	1.8%	0.3%	2.6%	0.7%	1.1%	2.2%
6	自分にあった活動の場がない	15.8%	9.5%	14.3%	20.3%	30.3%	7.0%	11.8%	18.2%	20.8%
7	一緒にやる仲間がない	9.6%	10.8%	9.1%	9.6%	14.1%	9.0%	5.2%	11.8%	7.3%
8	何から始めるか、きっかけがつかめない	17.8%	14.7%	14.3%	18.0%	23.4%	18.7%	20.4%	17.1%	15.7%
9	興味がない、関心がない	39.4%	44.3%	43.9%	40.0%	47.0%	30.9%	32.9%	29.9%	38.8%
10	その他	1.7%	0.8%	0.4%	2.3%	2.3%	2.0%	1.7%	3.2%	2.2%

4.5 今後の社会活動への参加意向

今後、社会活動に参加したいと思うか（Q13_4）を尋ねたところ、調査対象者全体では「条件によっては参加してもよい」38.7%と「参加するつもりはない」37.9%の両者の回答が拮抗した。

男性の35歳以上54歳以下では「参加するつもりはない」が第1位で、第2位は「条件によっては参加してもよい」であったが、55歳以上74歳以下ではこの順番が入れ替わり、「条件によっては参加してもよい」が第1位であった。女性は男性とは対照的に35歳以上64歳以下で「条件によっては参加してもよい」が第1位となり、「参加するつもりはない」を上回った。女性の65歳以上74歳以下では「参加するつもりはない」が第1位となった。

Q13_4 今後参加したいと思いますか。(SA)

		全体	第2号							
			男性 35～44歳	男性 45～54歳	男性 55～64歳	男性 65～74歳	女性 35～44歳	女性 45～54歳	女性 55～64歳	女性 65～74歳
n =		3839	600	503	395	389	343	289	187	178
1	積極的に参加したい	1.8%	2.7%	2.0%	3.0%	2.1%	2.9%	1.4%	1.1%	1.1%
2	条件によっては参加してもよい	38.7%	35.5%	32.0%	42.0%	44.2%	41.7%	37.7%	46.0%	39.9%
3	参加するつもりはない	37.9%	41.8%	42.9%	37.7%	38.8%	35.0%	36.3%	29.4%	44.9%
4	わからない	21.5%	20.0%	23.1%	17.2%	14.9%	20.4%	24.6%	23.5%	14.0%

5 生活の満足度について

5.1 健康

現在の生活で健康がどの程度満たされるか（Q14_1）を尋ねたところ、調査対象者全体の満足度判断DI⁸は15.2ポイントであり、健康への満足度は比較的高かった。

男女ともに年齢階層が上がるにつれて健康への満足度は高まる傾向がみられた。

Q14_1 現在のあなたの生活で、以下のことがどの程度満たされていると思いますか。それぞれについてお答えください。/健康（SA）

	全体	第2号								
		男性 35～44歳	男性 45～54歳	男性 55～64歳	男性 65～74歳	女性 35～44歳	女性 45～54歳	女性 55～64歳	女性 65～74歳	
n =	5,000	749	644	501	617	400	347	243	259	
1	十分に満たされている	5.7%	4.8%	4.7%	4.0%	7.9%	4.5%	3.7%	5.3%	6.6%
2	まあ満たされている	44.7%	33.5%	33.2%	40.5%	52.5%	47.3%	45.0%	48.6%	57.5%
3	どちらともいえない	28.3%	37.1%	35.9%	33.5%	20.3%	26.3%	28.2%	28.4%	20.1%
4	やや欠けている	16.8%	17.8%	22.5%	18.0%	15.6%	15.5%	17.9%	15.6%	12.4%
5	まったく欠けている	4.5%	6.8%	3.7%	4.0%	3.7%	6.5%	5.2%	2.1%	3.5%
DI	15.2	5.9	6.3	11.3	22.7	13.9	12.1	19.8	25.7	

5.2 経済的ゆとり

現在の生活で経済的なゆとりがどの程度満たされるか（Q14_3）を尋ねたところ、調査対象者全体の満足度判断DIは-5.0ポイントとマイナスになり、経済的なゆとりはないという結果であった。

男女ともに年齢階層が上がるにつれて満足度判断DIはマイナスの値が縮小していき、65歳以上74歳以下になるとプラスに転じて、経済的なゆとりが出てくる。

Q14_3 現在のあなたの生活で、以下のことがどの程度満たされていると思いますか。それぞれについてお答えください。/経済的ゆとり（SA）

	全体	第2号								
		男性 35～44歳	男性 45～54歳	男性 55～64歳	男性 65～74歳	女性 35～44歳	女性 45～54歳	女性 55～64歳	女性 65～74歳	
n =	5,000	749	644	501	617	400	347	243	259	
1	十分に満たされている	3.9%	2.7%	2.5%	3.8%	3.9%	2.5%	3.5%	3.3%	5.4%
2	まあ満たされている	30.2%	19.8%	22.8%	26.7%	37.0%	25.0%	27.1%	35.8%	43.2%
3	どちらともいえない	30.5%	30.8%	34.2%	34.1%	33.9%	26.8%	26.2%	27.2%	27.0%
4	やや欠けている	23.0%	28.8%	25.3%	24.2%	19.0%	29.8%	24.8%	21.0%	16.2%
5	まったく欠けている	12.5%	17.9%	15.2%	11.2%	6.3%	16.0%	18.4%	12.8%	8.1%
DI	-5.0	-19.8	-14.0	-6.1	6.6	-15.9	-13.8	-2.1	10.8	

5.3 精神的ゆとり

現在の生活で精神的なゆとりがどの程度満たされるか（Q14_4）を尋ねたところ、調査

⁸ 本稿の満足度判断DIは次のように算出。「十分に満たされている」回答割合＋「まあ満たされている」回答割合＊0.5－「やや欠けている」回答割合＊0.5－「まったく欠けている」回答割合。

対象者全体の満足度判断 DI は 6.5 ポイントであり、精神的なゆとりは全体としてあるという結果であった。

54 歳以下でマイナスであった男女の満足度判断 DI は年齢階層が上がるにつれて不満が後退し、55 歳以上 64 歳以下ではプラスに転じた。65 歳以上 74 歳未満では 30 ポイントを上回り、大きなゆとりを感じていることが分かる。仕事及び子育てなどに目途がついて、精神的な余裕が出てくるためであろう。

Q14_4 現在のあなたの生活で、以下のことがどの程度満たされていると思いますか。それぞれについてお答えください。/精神的ゆとり (SA)

		全体	第2号							
			男性 35~44歳	男性 45~54歳	男性 55~64歳	男性 65~74歳	女性 35~44歳	女性 45~54歳	女性 55~64歳	女性 65~74歳
n =		5,000	749	644	501	617	400	347	243	259
1	十分に満たされている	6.0%	2.5%	3.6%	4.6%	10.5%	3.5%	4.6%	6.6%	11.6%
2	まあ満たされている	35.0%	21.9%	23.6%	34.7%	52.5%	27.8%	27.7%	36.2%	54.8%
3	どちらともいえない	32.2%	37.4%	36.3%	37.3%	27.9%	30.3%	32.6%	31.7%	22.4%
4	やや欠けている	19.6%	27.1%	26.4%	19.2%	6.8%	27.3%	23.1%	20.2%	10.0%
5	まったく欠けている	7.2%	11.1%	10.1%	4.2%	2.3%	11.3%	12.1%	5.3%	1.2%
DI		6.5	-11.1	-7.9	8.2	31.1	-7.5	-5.2	9.3	32.8

6 生きがいについて

6.1 生きがいとは

「生きがい」を表すのに最も適当な項目は何か (Q16_1、複数回答) を尋ねたところ、調査対象者全体では「生きる喜びや満足感」45.3%、「心の安らぎや気晴らし」29.9%、「生活の活力やはりあい」29.4%の順であった。

「生きる喜びや満足感」は男女ともにすべての年齢階層で第1位であった。また、第2位と第3位は「心の安らぎや気晴らし」と「生きる喜びや満足感」のいずれかで、これら3つの選択肢が上位3位を占めた。

Q16_1 よく「生きがい」と言われますが、次の中で「生きがい」を表すのに最も適当なのはどれだと思いますか。あなたのお考えに最も近いものから2つまで選んでください。(MA)

		全体	第2号							
			男性 35~44歳	男性 45~54歳	男性 55~64歳	男性 65~74歳	女性 35~44歳	女性 45~54歳	女性 55~64歳	女性 65~74歳
n =		5,000	749	644	501	617	400	347	243	259
1	生活の活力やはりあい	29.4%	28.0%	26.6%	25.5%	28.4%	29.0%	35.2%	33.7%	29.3%
2	生活のリズムやメリハリ	13.0%	13.4%	12.3%	11.6%	16.4%	14.3%	11.5%	16.0%	12.0%
3	心の安らぎや気晴らし	29.9%	29.9%	27.6%	27.7%	25.4%	27.3%	32.3%	32.9%	39.0%
4	生きる喜びや満足感	45.3%	39.8%	41.6%	45.3%	46.2%	47.8%	45.2%	46.5%	40.9%
5	人生観や価値観の形成	11.0%	12.3%	13.2%	14.0%	14.3%	7.0%	7.2%	12.3%	14.7%
6	生きる目標や目的	19.8%	19.6%	18.6%	21.4%	17.3%	21.3%	20.2%	17.3%	19.3%
7	自分自身の向上	9.0%	9.7%	10.4%	9.2%	9.9%	9.5%	8.1%	7.8%	8.1%
8	自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じる	10.2%	8.0%	9.8%	11.0%	12.8%	9.8%	9.5%	9.1%	12.0%
9	他人や社会の役に立っていると感じる	7.2%	4.5%	6.4%	7.6%	12.8%	4.0%	4.3%	6.2%	11.2%
10	その他	0.7%	0.7%	0.8%	1.2%	1.1%	0.0%	0.6%	0.4%	0.8%

6.2 生きがいの有無

現在、生きがいを持っているか（Q16_2）を尋ねたところ、調査対象者全体では「持っている」44.5%、「持っていない」23.9%、「前は持っていたが、今は持っていない」13.5%の順であった。「持っていない」と「前は持っていたが、今は持っていない」を加えた「現在、持っていない」は37.4%に達した。

男女ともに35歳以上54歳以下では「前は持っていたが、今は持っていない」及び「持っていない」が多いものの、年齢階層が高くなると生きがいを持っている割合が増える傾向にある。前述の3.1 自由時間及び5.3 精神的なゆとりが生きがいと関連性があるものと思われる。

Q16_2 そのような生きがいを、あなたは現在持っていますか。（SA）

	全体	第2号							
		男性 35~44歳	男性 45~54歳	男性 55~64歳	男性 65~74歳	女性 35~44歳	女性 45~54歳	女性 55~64歳	女性 65~74歳
n =	5,000	749	644	501	617	400	347	243	259
1 持っている	44.5%	35.1%	32.6%	43.9%	62.1%	38.5%	36.0%	46.5%	62.2%
2 前は持っていたが、今は持っていない	13.5%	16.2%	15.7%	15.4%	12.0%	12.0%	18.2%	10.3%	11.6%
3 持っていない	23.9%	29.6%	33.5%	24.0%	11.8%	31.0%	26.2%	24.3%	12.4%
4 わからない	18.2%	19.1%	18.2%	16.8%	14.1%	18.5%	19.6%	18.9%	13.9%

6.3 生きがいを感じること

現在、どのようなことに生きがいを感じるか（Q17、複数回答）を尋ねたところ、調査対象者全体では「趣味」44.2%、「子ども・孫・親などの家族・家庭」39.4%、「配偶者・結婚生活」28.0%、「ひとりで気ままに過ごすこと」20.6%の順であった。

男性では、「趣味」「子ども・孫・親などの家族・家庭」「配偶者・結婚生活」が上位3位を占めた。なお、「仕事」が35歳以上54歳以下で25%前後を占めたのは、他の年齢階層や女性にみられない特徴である。女性では、35歳以上44歳以下で「子ども・孫・親などの家族・家庭」43.5%が第1位になったこと、55歳以上74歳以下で「友人など家族以外の人との交流」が20%前後を占めたことが特徴としてあげられる。また、男女ともに年齢階層が上がるにつれて「自分自身の健康づくり」という回答割合が増加して、65歳以上74歳以下の男性では21.1%に、同じく女性では25.9%に達した点も注目される。

Q17 あなたは現在、どのようなことに生きがいを感じますか。(MA)

	全体	第2号							
		男性 35～44歳	男性 45～54歳	男性 55～64歳	男性 65～74歳	女性 35～44歳	女性 45～54歳	女性 55～64歳	女性 65～74歳
n =	5,000	749	644	501	617	400	347	243	259
1 仕事	15.8%	23.6%	25.5%	19.4%	12.5%	19.5%	16.4%	11.1%	7.7%
2 趣味	44.2%	45.0%	47.0%	50.5%	55.8%	31.5%	41.2%	45.7%	49.8%
3 スポーツ	9.3%	14.3%	10.2%	10.2%	12.5%	5.8%	5.5%	6.6%	10.8%
4 学習活動	2.8%	2.7%	2.3%	2.8%	2.4%	4.0%	2.9%	1.6%	3.5%
5 社会活動(ボランティア含む)	4.9%	2.4%	2.8%	3.6%	13.5%	1.8%	3.2%	5.8%	9.3%
6 自然とのふれあい	9.7%	5.5%	6.7%	13.8%	19.4%	7.0%	7.8%	9.9%	13.9%
7 配偶者・結婚生活	28.0%	26.2%	27.6%	29.9%	31.9%	23.5%	19.3%	23.5%	22.0%
8 子ども・孫・親などの家族・家庭	39.4%	35.4%	27.3%	33.7%	36.1%	43.5%	33.7%	39.9%	44.4%
9 友人など家族以外の人との交流	13.3%	8.9%	5.9%	9.6%	12.6%	17.0%	13.8%	18.9%	22.4%
10 自分自身の健康づくり	12.1%	3.2%	7.3%	12.8%	21.1%	6.3%	9.8%	13.6%	25.9%
11 ひとりで気ままにすごすこと	20.6%	17.2%	21.3%	20.0%	18.2%	20.8%	29.4%	30.0%	22.4%
12 自分自身の内面の充実	11.8%	8.5%	10.6%	9.0%	11.0%	10.3%	14.1%	11.9%	15.8%
13 その他	2.6%	2.9%	2.5%	2.4%	1.9%	3.0%	3.5%	4.1%	1.9%

6.4 これから先に楽しみにしていること

これから先に何か楽しみにしていることはあるか(Q19)を尋ねたところ、調査対象者全体では「いつか明らかではないが、楽しみにしていることはある」35.3%、「1年以内にある」32.4%、「楽しみにしていることはない」25.7%の順であった。

男性では、「いつか明らかではないが、楽しみにしていることはある」が全年齢階層を通して第1位であった。ただし、35歳以上54歳以下で「楽しみにしていることはない」が30%超の第2位であった点は注目される。女性では、「1年以内にある」が45歳以上54歳以下の年齢階層で第2位になった以外は第1位を占め、男性に比べて具体的な楽しみを有している人が多い。

Q19 あなたはこれから先に、何か楽しみにしていることはありますか。(SA)

	全体	第2号							
		男性 35～44歳	男性 45～54歳	男性 55～64歳	男性 65～74歳	女性 35～44歳	女性 45～54歳	女性 55～64歳	女性 65～74歳
n =	5,000	749	644	501	617	400	347	243	259
1 1年以内にある	32.4%	29.0%	26.2%	27.5%	31.4%	36.8%	30.5%	38.3%	36.7%
2 1年以上先にある	6.6%	7.6%	6.5%	10.6%	6.8%	6.0%	6.6%	5.3%	7.7%
3 いつか明らかではないが、楽しみにしていることはある	35.3%	32.7%	35.1%	38.1%	42.6%	28.8%	34.9%	33.3%	35.5%
4 楽しみにしていることはない	25.7%	30.7%	32.1%	23.8%	19.1%	28.5%	28.0%	23.0%	20.1%

7 配偶者との関係について

配偶者は自分のことを応援してくれるか(Q21_1)を尋ねたところ、調査対象者全体の配偶者関係判断DI⁹は60.9ポイントであり、全体として夫婦間で良好な関係が築きあげられていることが分かる。

第2号の男女間に大きな違いはみられず、また専業主婦(第3号)の回答にも大きな差異はみられなかった。

⁹ 本稿の配偶者関係判断DIは次のように算出。「まったくそのとおり」回答割合+「まあそのとおり」回答割合*0.5 - 「あまりそうではない」回答割合*0.5 - 「まったく違う」回答割合。

Q21_1 日頃の配偶者との関係について、どう感じていますか。以下の項目についてそれぞれお答えください。/配偶者は自分のことを応援してくれる (SA)

	全体	第2号								
		男性 35~44歳	男性 45~54歳	男性 55~64歳	男性 65~74歳	女性 35~44歳	女性 45~54歳	女性 55~64歳	女性 65~74歳	
n =	3,855	467	464	413	545	231	207	166	173	
1	まったくそのとおり	23.2%	23.6%	21.8%	27.1%	27.9%	23.8%	18.8%	21.7%	22.0%
2	まあそのとおり	51.8%	50.3%	48.1%	51.1%	56.0%	50.6%	55.1%	52.4%	53.8%
3	あまりそうでない	14.9%	16.9%	17.9%	16.0%	12.3%	14.7%	9.7%	12.7%	13.9%
4	まったく違う	5.7%	5.6%	7.5%	2.2%	1.8%	6.5%	7.7%	9.0%	8.7%
5	わからない	4.5%	3.6%	4.7%	3.6%	2.0%	4.3%	8.7%	4.2%	1.7%
DI		60.9	59.6	58.0	61.6	63.2	59.1	64.7	58.4	58.1

	第3号 全体	第3号 35~44歳	第3号 45~54歳	現・前第3号 55~64歳	前第3号 65~74歳	
n =	1,189	353	305	263	268	
1	まったくそのとおり	21.0%	21.0%	21.2%	19.3%	18.6%
2	まあそのとおり	51.3%	51.3%	45.9%	50.2%	58.2%
3	あまりそうでない	15.1%	15.1%	17.6%	15.1%	14.1%
4	まったく違う	6.7%	6.7%	8.2%	7.5%	5.3%
5	わからない	5.9%	5.9%	7.1%	7.9%	3.8%
DI		61.4	61.4	57.6	61.8	66.3

自分は配偶者の良き理解者であるか (Q21_2) を尋ねたところ、調査対象者全体の配偶者関係判断 DI は 62.3 ポイントであり、前問 (Q21_1) と同様な結果であった。

Q21_2 日頃の配偶者との関係について、どう感じていますか。以下の項目についてそれぞれお答えください。/自分は配偶者の良き理解者である (SA)

	全体	第2号								
		男性 35~44歳	男性 45~54歳	男性 55~64歳	男性 65~74歳	女性 35~44歳	女性 45~54歳	女性 55~64歳	女性 65~74歳	
n =	3,855	467	464	413	545	231	207	166	173	
1	まったくそのとおり	20.5%	18.2%	19.4%	22.8%	26.8%	19.5%	15.9%	22.9%	18.5%
2	まあそのとおり	51.8%	50.1%	46.8%	47.7%	56.7%	53.7%	53.1%	47.0%	58.4%
3	あまりそうでない	18.0%	20.6%	22.6%	23.5%	13.8%	14.3%	15.5%	17.5%	15.6%
4	まったく違う	5.5%	6.4%	6.7%	3.9%	1.1%	8.7%	9.2%	8.4%	5.2%
5	わからない	4.2%	4.7%	4.5%	2.2%	1.7%	3.9%	6.3%	4.2%	2.3%
DI		62.3	61.9	59.3	59.7	64.7	60.4	62.6	55.7	65.9

	第3号 全体	第3号 35~44歳	第3号 45~54歳	現・前第3号 55~64歳	前第3号 65~74歳	
n =	1,189	353	305	263	268	
1	まったくそのとおり	19.3%	17.6%	16.7%	19.0%	24.6%
2	まあそのとおり	52.8%	51.6%	50.2%	55.9%	54.5%
3	あまりそうでない	16.7%	17.0%	17.4%	17.5%	14.6%
4	まったく違う	5.6%	7.6%	6.9%	3.0%	4.1%
5	わからない	5.6%	6.2%	8.9%	4.6%	2.2%
DI		64.0	62.5	64.3	67.7	61.9

8 退職後の生活について

8.1 退職後の生活資金の原資

現役退職後の生活費を主に何でまかなおうと考えているか（Q24_1、複数回答）を尋ねたところ、調査対象者全体では「本人の公的年金」「預貯金の取りくずし」「退職金」「就労による収入」「配偶者の公的年金」の順であった。特に「本人の公的年金」は72.6%と極めて高く、退職後の生活原資の重要な柱と考えられている。

男性の35歳以上54歳以下の年齢階層では、「本人の公的年金」に続いて「退職金」及び「預貯金の取りくずし」が多いが、55歳以上74歳以下では「就労による収入」が第2位であった。定年退職しても何らかの仕事を続けていかなければならない現実に直面するためと思われる。女性は、男性に比べて「配偶者の公的年金」が多かった。

Q24_1 現職退職後の生活費を、主に何によってまかなおうと考えていますか。(MA)

	全体	第2号							
		男性 35~44歳	男性 45~54歳	男性 55~64歳	男性 65~74歳	女性 35~44歳	女性 45~54歳	女性 55~64歳	女性 65~74歳
n =	2,589	722	611	384	143	311	257	125	36
1 本人の公的年金	72.6%	70.6%	72.2%	80.5%	95.8%	62.1%	63.8%	74.4%	91.7%
2 配偶者の公的年金	19.9%	16.6%	13.4%	18.2%	35.0%	25.4%	22.2%	32.0%	47.2%
3 企業年金	14.1%	14.3%	17.2%	18.5%	18.9%	6.4%	7.4%	12.0%	16.7%
4 退職金	26.6%	28.3%	35.4%	34.1%	17.5%	18.6%	14.0%	14.4%	2.8%
5 生命保険の保険金や個人年金	18.5%	18.4%	18.0%	16.7%	10.5%	19.0%	26.8%	20.0%	13.9%
6 預貯金の取りくずし	31.1%	29.9%	28.5%	29.2%	23.1%	35.7%	39.3%	37.6%	33.3%
7 就労による収入	25.5%	21.1%	25.2%	34.6%	34.3%	20.9%	25.3%	28.0%	19.4%
8 子ども等からの経済的支援	0.7%	0.7%	0.5%	0.5%	2.1%	0.6%	1.2%	0.8%	0.0%
9 その他	1.3%	1.0%	1.1%	2.3%	1.4%	0.3%	1.9%	2.4%	0.0%
10 わからない・考えたことがない	11.0%	14.8%	11.8%	4.4%	1.4%	15.1%	10.9%	8.8%	0.0%

8.2 現職退職後の仕事

現職退職後に仕事をどのようにしたいか（Q24_2）を尋ねたところ、調査対象者全体では「できれば仕事を継続したい」41.6%、「退職とともに職業生活から引退したい」23.0%で、仕事の継続意向が強かった。この傾向は男女間で大きな違いはなかった。

Q24_2 現職退職後に、仕事をどのようにしたいと思いますか。(SA)

	全体	第2号							
		男性 35~44歳	男性 45~54歳	男性 55~64歳	男性 65~74歳	女性 35~44歳	女性 45~54歳	女性 55~64歳	女性 65~74歳
n =	2,589	722	611	384	143	311	257	125	36
1 退職とともに職業生活から引退したい	23.0%	24.9%	26.4%	16.4%	18.9%	22.8%	21.4%	24.8%	19.4%
2 できれば仕事を継続したい	41.6%	38.6%	39.3%	48.4%	44.8%	43.1%	41.2%	42.4%	41.7%
3 退職後は自分で事業や商売を始めたい(自由業を含む)	6.8%	7.5%	9.5%	8.1%	1.4%	4.8%	4.3%	3.2%	0.0%
4 退職後は家業を手伝いたい	1.1%	1.4%	0.7%	1.3%	0.7%	1.0%	1.9%	0.8%	0.0%
5 退職後はシルバー人材センターなどで簡単な仕事をしたい	9.8%	7.8%	8.2%	11.5%	16.8%	11.3%	9.3%	11.2%	19.4%
6 その他	0.5%	0.3%	0.3%	0.3%	4.2%	0.3%	0.4%	0.0%	0.0%
7 わからない・考えたことがない	17.2%	19.5%	15.7%	14.1%	13.3%	16.7%	21.4%	17.6%	19.4%

8.3 仕事継続の時期

「できれば仕事を継続したい」意向の人に、どの時期まで仕事をしたいか（Q24_3）を尋ねたところ、回答者全体では「元気なうちはいつまでも」が74.1%と大多数を占めた。

「満額年金受給時まで」は18.6%にとどまった。この傾向は男女ともに同様であった。

Q24_3 Q24_2で「できれば仕事を継続したい」と選択された方におうかがいします。どの時期まで仕事をしたいと考えていますか。（SA）

	全体	第2号							
		男性 35～44歳	男性 45～54歳	男性 55～64歳	男性 65～74歳	女性 35～44歳	女性 45～54歳	女性 55～64歳	女性 65～74歳
n =	1,077	279	240	186	64	134	106	53	15
1 満額年金受給時まで	18.6%	24.4%	22.1%	17.7%	0.0%	15.7%	14.2%	18.9%	0.0%
2 元気なうちはいつまでも	74.1%	71.3%	70.0%	73.1%	87.5%	80.6%	77.4%	69.8%	80.0%
3 目標とする年齢（満額年金受給時を除く）まで	7.3%	4.3%	7.9%	9.1%	12.5%	3.7%	8.5%	11.3%	20.0%

8.4 定年後または50歳以上の退職後の就業状況

定年後または50歳以上の退職後に仕事についてか（Q25_1）を尋ねたところ、回答者全体では「職業生活から引退した」37.1%、「別の企業に再就職した」29.6%、「再雇用制度等により、前の会社に勤めた」14.4%の順であった。

男性の55歳以上64歳以下では、「別の企業に再就職した」35.4%、「再雇用制度等により、前の会社に勤めた」25.6%、「職業生活から引退した」24.2%の順であった。65歳以上74歳以下では、「職業生活から引退した」38.8%、「別の企業に再就職した」26.6%、「再雇用制度等により、前の会社に勤めた」14.7%の順であった。

女性の55歳以上64歳以下では、「職業生活から引退した」39.7%、「別の企業に再就職した」34.6%の順であった。男性で多かった「再雇用制度等により、前の会社に勤めた」は5.1%と少なかった。65歳以上74歳以下では、「職業生活から引退した」54.0%、「別の企業に再就職した」21.1%の順であった。

Q25_1 定年後または50歳以上の退職後に仕事につきましたか。（SA）

	全体	第2号			
		男性 55～64歳	男性 65～74歳	女性 55～64歳	女性 65～74歳
n =	1,046	223	546	78	161
1 職業生活から引退した	37.1%	24.2%	38.8%	39.7%	54.0%
2 再雇用制度等により、前の会社に勤めた	14.4%	25.6%	14.7%	5.1%	5.0%
3 出向先に移籍した	2.6%	1.8%	3.5%	1.3%	0.6%
4 別の企業に再就職した	29.6%	35.4%	26.6%	34.6%	21.1%
5 自分で事業や商売を始めた（自由業を含む）	6.4%	9.9%	7.1%	1.3%	1.9%
6 家業を手伝うようになった	2.3%	0.0%	2.6%	2.6%	4.3%
7 シルバー人材センターで仕事するようになった	2.0%	0.9%	2.6%	1.3%	2.5%
8 その他	5.5%	2.2%	4.2%	14.1%	10.6%

8.5 定年後のできごと

定年後から今までに起こったできごととはどのようなことか（Q25_2、複数回答）を尋ねたところ、回答者全体については「特に問題はなかった」44.8%、「経済的に苦しくなった」31.0%、「自分や配偶者の健康や体力が衰えた」20.9%、「時間をもてあました」15.4%、「今までの人的交流や情報量が減って困った」11.0%の順であった。「特に問題はなかった」が半数近くいた一方、問題を抱える人では経済面の課題が健康や精神面の課題を上回った。

Q25_2 定年後から今までに次のようなことがありましたか。定年を2回以上経験した場合は1回目について記入してください。（MA）

	全体	第2号			
		男性 55～64歳	男性 65～74歳	女性 55～64歳	女性 65～74歳
n =	784	151	495	21	114
1 経済的に苦しくなった	31.0%	36.4%	30.3%	33.3%	27.2%
2 住宅問題で困った	1.9%	2.6%	2.0%	0.0%	0.9%
3 自分や配偶者の健康や体力が衰えた	20.9%	21.9%	22.0%	14.3%	16.7%
4 再就職のことで困った	6.5%	8.6%	6.7%	9.5%	2.6%
5 家族との人間関係が悪くなった	2.9%	3.3%	2.8%	4.8%	2.6%
6 生活のはりや生きがいなくなった	9.4%	8.6%	8.9%	9.5%	13.2%
7 所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした	5.6%	11.9%	4.2%	19.0%	0.9%
8 今までの人的交流や情報量が減って困った	11.0%	10.6%	11.3%	19.0%	8.8%
9 世の中の情報化の進展についていけず困った	2.9%	2.0%	3.6%	4.8%	0.9%
10 社会から取り残されてしまった	2.6%	2.6%	2.0%	14.3%	2.6%
11 時間をもてあました	15.4%	13.9%	15.8%	9.5%	17.5%
12 地域社会にとけこめなかった	3.3%	2.6%	3.6%	0.0%	3.5%
13 その他	1.0%	0.0%	0.8%	4.8%	2.6%
14 特に問題はなかった	44.8%	38.4%	46.1%	23.8%	50.0%

8.6 完全退職後のできごと

完全退職後から今までに起こったできごととはどのようなこと（Q25_3、複数回答）を尋ねたところ、回答者全体については「特に問題はなかった」46.7%、「経済的に苦しくなった」31.8%、「自分や配偶者の健康や体力が衰えた」19.5%、「時間をもてあました」14.8%、「生活のはりや生きがいなくなった」10.0%の順であった。前問（Q25_2）と同様に、「特に問題はなかった」が半数近くいた一方、問題を抱える人では経済面の課題が健康や精神面の課題を上回った。

Q25_3 完全退職後から今までに次のようなことがありましたか。(MA)

		全体	第2号			
			男性 55～64歳	男性 65～74歳	女性 55～64歳	女性 65～74歳
n =		836	116	447	75	162
1	経済的に苦しくなった	31.8%	40.5%	32.2%	24.0%	23.5%
2	住宅問題で困った	2.4%	5.2%	2.2%	1.3%	1.2%
3	自分や配偶者の健康や体力が衰えた	19.5%	13.8%	23.5%	12.0%	19.1%
4	再就職のことで困った	5.0%	8.6%	4.5%	4.0%	1.2%
5	家族との人間関係が悪くなった	3.6%	5.2%	2.7%	2.7%	3.7%
6	生活のほりや生きがいなくなった	10.0%	8.6%	9.6%	8.0%	11.7%
7	所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした	3.8%	4.3%	3.6%	4.0%	3.1%
8	今までの人的交流や情報量が減って困った	9.2%	6.0%	9.8%	12.0%	8.0%
9	世の中の情報化の進展についていけず困った	2.5%	1.7%	2.7%	4.0%	1.9%
10	社会から取り残されてしまった	3.2%	3.4%	2.0%	8.0%	2.5%
11	時間をもてあました	14.8%	13.8%	16.1%	16.0%	11.7%
12	地域社会にとけこめなかった	3.0%	1.7%	3.4%	4.0%	1.9%
13	その他	2.0%	1.7%	1.6%	6.7%	1.9%
14	特に問題はなかった	46.7%	39.7%	46.1%	48.0%	53.1%

9 配偶者の退職について

9.1 退職後の生活に関する夫婦での話し合い

専業主婦（第3号）に、配偶者が退職した後どうすごすかの生活設計（仕事、家庭生活、余暇など）について夫婦で話し合ったことがあるか（Q24_B_1）を尋ねたところ、回答者全体では「まったくない」52.1%、「たまにある」42.6%、「よくある」5.3%の順であった。

年齢階層別では、35歳以上54歳以下では「まったくない」が50%を超えていたが、55歳以上64歳以下では「まったくない」が34.5%に減る一方、「たまにある」が55.5%に増えて過半数を占めた。「よくある」も10.1%に増えた。

Q24_B_1 配偶者が退職されたあと、どうすごすかの生活設計（仕事、家庭生活、余暇など）について、ご夫婦で話し合ったことがありますか。（SA）

		第3号 全体	第3号 35～44歳	第3号 45～54歳	第3号 55～64歳
n =		777	353	305	119
1	よくある	5.3%	3.4%	5.6%	10.1%
2	たまにある	42.6%	38.8%	42.0%	55.5%
3	まったくない	52.1%	57.8%	52.5%	34.5%

9.2 配偶者に対する現職退職後の日常生活への要望

専業主婦（第3号）に、配偶者には現職退職後にどのような日常生活を送って欲しいか（Q24_B_3）を尋ねたところ、回答者全体では「フルタイムの就労」33.3%、「パートタイムの就労」28.6%、「趣味やボランティアなど生きがいを探す」25.7%の順であった。

年齢階層別では、35歳以上44歳以下では「パートタイムの就労」30.0%が第1位であったが、年齢階層が上がるにつれて、その割合は低下する一方、「フルタイムの就労」が増

加して 55 歳以上 64 歳以下では 39.5%に達した。年齢が高くなって家計のやりくりの厳しさに直面すると、配偶者に対する仕事への期待感が強まるものと思われる。

Q24_B_3 配偶者には現職退職後にどのような日常生活を送って欲しいですか。(SA)

		第3号 全体	第3号 35～44歳	第3号 45～54歳	第3号 55～64歳
n =		777	353	305	119
1	フルタイムの就労	33.3%	28.6%	36.4%	39.5%
2	パートタイムの就労	28.6%	30.0%	27.9%	26.1%
3	趣味やボランティアなど生きがいを探す	25.7%	28.9%	21.6%	26.9%
4	主に自宅で過ごす	9.4%	9.6%	10.2%	6.7%
5	その他	3.0%	2.8%	3.9%	0.8%

10 住まいについて

10.1 将来の住まい

将来の住まいをどのようにする予定か(Q28)を尋ねたところ、調査対象者全体では「自分または配偶者の持ち家に住む」が70.4%と大半を占め、次いで「賃貸住宅に住む」が13.5%と続いた。

年齢階層が上がるにつれて「賃貸住宅に住む」「親・親類から家を譲り受ける」が減り、「自分または配偶者の持ち家に住む」が増加する傾向がみられる。相続による住居の譲り受けや住宅の購入が進むためであろう。なお、その変化の程度は男性の方が女性よりも大きい。「自立型住居(有料老人ホーム、有料介護施設など)に住む」は、女性の65歳以上74歳以下で1番多いが、それでも9.7%にとどまった。

Q28 将来のお住まいはどのようにする予定ですか。(SA)

	全体	第2号								
		男性 35～44歳	男性 45～54歳	男性 55～64歳	男性 65～74歳	女性 35～44歳	女性 45～54歳	女性 55～64歳	女性 65～74歳	
n =	5,000	749	644	501	617	400	347	243	259	
1	自分または配偶者の持ち家に住む	70.4%	61.8%	67.1%	78.8%	81.7%	57.3%	59.1%	70.8%	72.2%
2	親・親類から家を譲り受ける	8.4%	15.0%	12.0%	4.8%	1.6%	16.0%	11.5%	7.8%	1.2%
3	賃貸住宅に住む	13.5%	18.7%	15.4%	11.4%	7.3%	19.3%	21.9%	12.3%	12.0%
4	自立型住居(有料老人ホーム、有料介護施設など)に住む	5.2%	3.1%	4.2%	4.0%	6.8%	5.3%	4.9%	6.6%	9.7%
5	その他	2.5%	1.5%	1.4%	1.0%	2.6%	2.3%	2.6%	2.5%	5.0%

10.2 住宅ローンの有無

住宅ローンを支払っているか(Q29)を尋ねたところ、調査対象者全体では「支払っていない」が75.2%、「支払っている」が24.8%であった。

年齢階層が上がるにつれて「支払っていない」が増えて、65歳以上74歳以下では94%前後に達した。高年齢階層では住宅ローンをすでに完済した人がかなりの程度存在するためであろう。

Q29 現在、住宅ローンを支払っていますか。(SA)

	全体	第2号							
		男性 35~44歳	男性 45~54歳	男性 55~64歳	男性 65~74歳	女性 35~44歳	女性 45~54歳	女性 55~64歳	女性 65~74歳
n =	5,000	749	644	501	617	400	347	243	259
1 支払っている	24.8%	36.7%	35.4%	22.6%	6.3%	28.5%	25.4%	12.8%	5.4%
2 支払っていない	75.2%	63.3%	64.6%	77.4%	93.7%	71.5%	74.6%	87.2%	94.6%

10.3 住宅ローン残高

住宅ローンを抱えている対象者に現在の残高はおおよそいくらか(Q30)を尋ねたところ、回答者全体では「1000万円以上2000万円未満」32.7%、「2000万円以上5000万円未満」25.2%、「500万円以上1000万円未満」18.5%の順であった。

男女で比較すると、男性の方が女性よりも住宅ローンを抱えている人数は多く、かつ同じ年齢階層では、男性の方が女性よりもローンの残高は多い。なお、女性の55歳以上74歳以下では「わからない」という回答が多いことに留意が必要である。

Q30 現在の住宅ローン残高はおおよそいくらですか。(SA)

	全体	第2号							
		男性 35~44歳	男性 45~54歳	男性 55~64歳	男性 65~74歳	女性 35~44歳	女性 45~54歳	女性 55~64歳	女性 65~74歳
n =	1,240	275	228	113	39	114	88	31	14
1 100万円未満	1.8%	0.7%	1.8%	3.5%	7.7%	0.0%	1.1%	3.2%	0.0%
2 100万円以上~500万円未満	10.2%	4.7%	10.1%	19.5%	59.0%	5.3%	10.2%	12.9%	35.7%
3 500万円以上~1000万円未満	18.5%	11.6%	22.4%	21.2%	20.5%	15.8%	21.6%	32.3%	28.6%
4 1000万円以上~2000万円未満	32.7%	37.5%	36.8%	29.2%	10.3%	39.5%	33.0%	19.4%	0.0%
5 2000万円以上~5000万円未満	25.2%	39.6%	24.1%	17.7%	2.6%	27.2%	25.0%	12.9%	7.1%
6 5000万円以上~1億円未満	0.4%	1.5%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
7 1億円以上	0.2%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%
8 わからない	11.1%	4.0%	4.4%	8.8%	0.0%	11.4%	9.1%	19.4%	28.6%

11 家庭経済及び暮らし向きについて

11.1 世帯収入

昨年1年間の世帯の年収はいくらか(Q31)を尋ねたところ、調査対象者全体では「600万円以上800万円未満」14.4%、「400万円以上500万円未満」12.2%、「300万円以上400万円未満」12.0%、「500万円以上600万円未満」11.2%の順であった¹⁰。

男性の方が女性に比べてすべての年齢階層を通じて世帯収入は多く、45歳以上54歳では「500万円以上600万円未満」から「1000万円以上1500万円未満」の分布が厚くなっている。55歳以上64歳以下では定年退職に該当する年齢階層であるため、「300万円以上400万円未満」「400万円以上500万円未満」の低い層と、「600万円以上800万円未満」「800万円以上1000万円未満」「1000万円以上1500万円未満」の高い層に2極化する。65歳

¹⁰ 世帯収入については「わからない」が17.0%でトップであった。特に女性で顕著である。なお、年収600万円以上1000万円未満は200万円刻みとなっており、200万円以上600万円未満が100万円刻みとなっているのとは違っていることに注意を促したい。

以上 74 歳以下では「200 万円以上 300 万円未満」「300 万円以上 400 万円未満」「400 万円以上 500 万円未満」の低額帯にシフトしている。

Q31 昨年1年間のあなたの世帯（ご夫婦合わせて）の年収はいくらですか。（SA）

	全体	第2号							
		男性 35～44歳	男性 45～54歳	男性 55～64歳	男性 65～74歳	女性 35～44歳	女性 45～54歳	女性 55～64歳	女性 65～74歳
n =	5,000	749	644	501	617	400	347	243	259
1 200万円未満	5.4%	2.1%	2.8%	7.2%	8.3%	7.8%	8.1%	7.8%	10.0%
2 200万円以上～300万円未満	9.3%	5.5%	4.2%	9.6%	20.4%	9.5%	7.8%	11.9%	13.1%
3 300万円以上～400万円未満	12.0%	11.5%	6.8%	11.0%	22.4%	10.3%	10.1%	9.5%	16.6%
4 400万円以上～500万円未満	12.2%	14.7%	9.5%	10.6%	15.4%	12.3%	9.8%	7.8%	16.2%
5 500万円以上～600万円未満	11.2%	17.4%	11.5%	7.8%	6.5%	12.8%	9.8%	8.6%	8.1%
6 600万円以上～800万円未満	14.4%	19.8%	19.4%	15.2%	7.0%	15.3%	13.5%	10.3%	6.9%
7 800万円以上～1000万円未満	9.2%	9.5%	16.0%	11.8%	3.2%	9.8%	8.9%	7.0%	3.9%
8 1000万円以上～1500万円未満	7.1%	8.5%	12.7%	11.2%	1.5%	7.8%	8.6%	7.4%	2.3%
9 1500万円以上	2.3%	1.3%	4.2%	4.2%	1.1%	1.3%	3.2%	4.1%	0.8%
10 わからない	17.0%	9.7%	12.9%	11.6%	14.3%	13.5%	20.2%	25.5%	22.0%

11.2 世帯の金融資産

世帯で保有している預貯金株債券などの金融資産は全部でおよそいくらか（Q32）を尋ねたところ、調査対象者全体では「100 万円以上 500 万円未満」14.5%、「500 万円以上 1000 万円未満」11.1%、「2000 万円以上 5000 万円未満」10.6%、「1000 万円以上 2000 万円未満」10.4%の順であった¹¹。

男性の方が女性よりも保有残高は高く、年齢階層が上がるにつれて退職一時金の受取等もあって保有残高は高くなっていく傾向がみられる。

Q32 現在のあなたの世帯（ご夫婦合わせて）で保有している預貯金株債券などの金融資産は全部でおよそいくらか。（SA）

	全体	第2号							
		男性 35～44歳	男性 45～54歳	男性 55～64歳	男性 65～74歳	女性 35～44歳	女性 45～54歳	女性 55～64歳	女性 65～74歳
n =	5,000	749	644	501	617	400	347	243	259
1 なし	7.5%	8.1%	8.5%	8.2%	4.7%	8.3%	14.1%	7.0%	4.2%
2 100万円未満	7.9%	11.3%	10.2%	8.0%	4.1%	12.3%	8.4%	4.9%	4.2%
3 100万円以上～500万円未満	14.5%	20.0%	16.5%	15.2%	10.9%	17.3%	18.2%	11.5%	9.3%
4 500万円以上～1000万円未満	11.1%	15.1%	11.3%	8.6%	13.0%	12.8%	9.5%	8.2%	8.1%
5 1000万円以上～2000万円未満	10.4%	12.0%	8.5%	13.0%	15.2%	10.5%	5.5%	9.5%	11.2%
6 2000万円以上～5000万円未満	10.6%	9.5%	12.1%	11.6%	15.4%	4.8%	5.2%	13.2%	18.1%
7 5000万円以上～1億円未満	4.1%	2.0%	3.3%	7.0%	7.8%	1.3%	3.5%	3.7%	6.6%
8 1億円以上	1.7%	0.5%	2.6%	3.4%	2.6%	0.0%	1.2%	1.2%	2.7%
9 わからない	32.2%	21.4%	26.9%	25.1%	26.4%	33.0%	34.6%	40.7%	35.5%

11.3 現在の暮らし向き

現在の自身の暮らしについて、どのように感じているか（Q34）を尋ねたところ、調査対象者全体では「普通」44.0%、「少し苦しい」24.4%、「少し楽だ」14.2%、「とても苦し

¹¹ 世帯の金融資産については「わからない」が 32.2%でトップであった。特に女性で顕著である。

い」11.2%、「とても楽だ」6.2%の順であった。暮らし向き判断DI¹²は-10.1ポイントと全体としてマイナスであった。

男性の方が女性よりも暮らし向きは「苦しい」と感じており、特に35歳以上44歳以下及び45歳以上54歳以下では、DIは-18ポイント超である。それでも年齢階層が上がるにつれて苦しさは徐々に緩和傾向をたどる。女性の65歳以上74歳以下では、暮らし向き判断DIは-1.5ポイントと苦しさは大幅に後退している。

Q34 現在のあなた自身の暮らしについて、どのように感じていますか。(SA)

	全体	第2号								
		男性 35~44歳	男性 45~54歳	男性 55~64歳	男性 65~74歳	女性 35~44歳	女性 45~54歳	女性 55~64歳	女性 65~74歳	
n =	5,000	749	644	501	617	400	347	243	259	
1	とても楽だ	6.2%	4.3%	2.6%	5.0%	4.4%	5.5%	6.6%	4.5%	8.1%
2	少し楽だ	14.2%	12.4%	14.1%	14.2%	13.0%	15.3%	15.3%	10.3%	17.4%
3	普通	44.0%	41.9%	40.4%	44.7%	47.8%	42.8%	38.0%	48.6%	44.0%
4	少し苦しい	24.4%	25.6%	29.3%	25.5%	27.9%	23.3%	22.2%	27.2%	24.3%
5	とても苦しい	11.2%	15.8%	13.5%	10.6%	7.0%	13.3%	17.9%	9.5%	6.2%
DI		-10.1	-18.1	-18.5	-11.3	-10.0	-11.8	-14.7	-13.4	-1.5

11.4 5年前と比べた暮らし向き

5年前(平成23年)と比べて現在の自身の経済的な暮らしはどう変わったと感じているか(Q35)を尋ねたところ、調査対象者全体では「変わらない」47.0%、「以前より少し苦しくなった」26.6%、「以前より少し楽になった」11.9%、「以前よりとても苦しくなった」11.6%、「以前よりとても楽になった」2.8%の順であった。暮らし向き判断DI¹³は-16.2ポイントと「以前より苦しくなった」超であった。

前問(Q34)とは異なり、年齢階層が上がるにつれて「以前より苦しくなった」の程度が強まる傾向がみられる。特に男性でその傾向が顕著である。

Q35 あなたは5年前(平成23年)と比べて、現在のあなた自身の経済的な暮らしはどう変わったと感じていますか。(SA)

	全体	第2号								
		男性 35~44歳	男性 45~54歳	男性 55~64歳	男性 65~74歳	女性 35~44歳	女性 45~54歳	女性 55~64歳	女性 65~74歳	
n =	5,000	749	644	501	617	400	347	243	259	
1	以前よりとても楽になった	2.8%	2.3%	2.6%	3.6%	0.8%	4.3%	5.8%	2.9%	2.7%
2	以前より少し楽になった	11.9%	12.8%	14.1%	9.2%	7.3%	19.3%	15.3%	12.3%	6.6%
3	変わらない	47.0%	51.1%	40.4%	43.9%	44.9%	43.3%	41.2%	45.7%	52.1%
4	以前より少し苦しくなった	26.6%	20.0%	29.3%	31.9%	38.1%	22.0%	21.9%	26.7%	27.0%
5	以前よりとても苦しくなった	11.6%	13.8%	13.5%	11.4%	8.9%	11.3%	15.9%	12.3%	11.6%
DI		-16.2	-15.1	-18.5	-19.2	-23.5	-8.4	-13.4	-16.7	-19.1

12 本稿の暮らし向き判断DIは次のように算出。「とても楽だ」回答割合+「少し楽だ」回答割合*0.5 - 「少し苦しい」回答割合*0.5 - 「とても苦しい」回答割合。

13 本稿の暮らし向き判断DIは次のように算出。「以前よりとても楽になった」回答割合+「以前より少し楽になった」回答割合*0.5 - 「以前より少し苦しくなった」回答割合*0.5 - 「以前よりとても苦しくなった」回答割合。

12 介護について

12.1 介護経験の有無

介護の経験があるか（Q36_1）を尋ねたところ、調査対象者全体では「介護の経験はなく、現在も必要はない」が76.8%で大半を占めた。次いで「過去に介護の経験がある」15.9%、「現在、介護をしている」7.4%の順であった。

男女別にみると、「過去に介護の経験がある」及び「現在、介護をしている」の割合は女性の方が男性よりも高い。また、年齢階層が上がるにつれて「過去に介護の経験がある」及び「現在、介護をしている」が増加していく傾向がある。

Q36_1 あなたは介護の経験はありますか。(SA)

	全体	第2号							
		男性 35~44歳	男性 45~54歳	男性 55~64歳	男性 65~74歳	女性 35~44歳	女性 45~54歳	女性 55~64歳	女性 65~74歳
n =	5,000	749	644	501	617	400	347	243	259
1 現在、介護をしている	7.4%	5.1%	5.6%	7.4%	7.8%	5.5%	7.8%	16.9%	6.9%
2 過去に介護の経験がある	15.9%	5.9%	9.3%	15.6%	23.0%	9.3%	16.1%	22.6%	28.6%
3 介護の経験はなく、現在も必要はない	76.8%	89.1%	85.1%	77.0%	69.2%	85.3%	76.1%	60.5%	64.5%

12.2 介護の負担

介護の経験者（現在介護をしている者を含む）に対して介護の負担はどのようなことか（Q36_2、複数回答）を尋ねたところ、調査対象者全体では「精神的負担」69.7%、「身体的負担」61.0%、「自由な時間がなくなること」41.7%、「先が見えないことへの不安」39.2%、「金銭的負担」37.4%の順であった。

負担感は女性の方が男性より強く、年齢階層が上がるにつれて強まる傾向がみられる。実際、介護する側の当事者になるのは女性が多いためであろう。女性の65歳以上74歳以下で「自由な時間がなくなること」「先のみえないことへの不安」についての回答割合が男性や他の年齢階層に比べて高い点も注目される。

Q36_2 介護の負担はどのようなことですか。(MA)

	全体	第2号							
		男性 35~44歳	男性 45~54歳	男性 55~64歳	男性 65~74歳	女性 35~44歳	女性 45~54歳	女性 55~64歳	女性 65~74歳
n =	1,162	82	96	115	190	59	83	96	92
1 身体的負担	61.0%	56.1%	66.7%	62.6%	54.7%	44.1%	59.0%	70.8%	70.7%
2 精神的負担	69.7%	62.2%	68.8%	71.3%	69.5%	64.4%	72.3%	76.0%	72.8%
3 金銭的負担	37.4%	42.7%	46.9%	43.5%	34.7%	42.4%	49.4%	42.7%	48.9%
4 相談する相手がいない	9.2%	17.1%	9.4%	7.8%	3.7%	15.3%	10.8%	11.5%	10.9%
5 介護をかわってくれる人がいない	18.9%	18.3%	12.5%	17.4%	14.7%	25.4%	21.7%	18.8%	29.3%
6 自由な時間がなくなること	41.7%	26.8%	35.4%	40.0%	34.7%	37.3%	42.2%	49.0%	65.2%
7 先が見えないことへの不安	39.2%	22.0%	29.2%	29.6%	33.7%	32.2%	41.0%	41.7%	53.3%
8 その他	1.3%	0.0%	1.0%	0.9%	1.6%	3.4%	1.2%	1.0%	1.1%
9 介護の苦労はなかった	7.2%	2.4%	9.4%	7.0%	10.0%	5.1%	3.6%	5.2%	6.5%

12.3 自分の両親の介護

将来、自身の両親の介護についてどのように考えているか(Q36_3_1)を尋ねたところ、調査対象者全体の介護不安度判断DI¹⁴は全体として27.8ポイントであった。

女性の方が男性よりも不安感は強い。また、65歳以上74歳以下では「該当する人はいない」が男女ともに80%前後と急増する。自分の両親が死亡等で介護対象者が減少するため、両親の介護に対する不安感は他の年齢階層よりも大幅に後退する。

Q36_3_1 あなたは将来、家族とご自分の介護についてどのように考えていますか。以下の項目について、あてはまるものを選んでください。/ご自分の両親の介護(SA)

	全体	第2号							
		男性 35～44歳	男性 45～54歳	男性 55～64歳	男性 65～74歳	女性 35～44歳	女性 45～54歳	女性 55～64歳	女性 65～74歳
n =	5,000	749	644	501	617	400	347	243	259
1 大変不安である	14.4%	18.3%	17.5%	11.8%	3.1%	17.3%	23.1%	20.2%	3.1%
2 少し不安である	33.6%	44.6%	46.1%	29.7%	9.9%	49.3%	43.5%	27.2%	6.2%
3 あまり不安はない	13.7%	19.2%	18.3%	12.4%	6.8%	17.3%	13.0%	9.9%	5.0%
4 まったく不安はない	3.4%	4.8%	1.9%	3.2%	1.0%	5.3%	2.9%	2.5%	3.5%
5 該当する人はいない	34.9%	13.1%	16.1%	42.9%	79.3%	11.0%	17.6%	40.3%	82.2%
DI	27.8	35.8	33.3	23.7	5.6	38.5	41.2	31.3	7.1

12.4 配偶者の両親の介護

将来、配偶者の両親の介護についてどのように考えているか(Q36_3_2)を尋ねたところ、調査対象者全体の介護不安度判断DIは全体として19.0ポイントであった。

前問と同様に、女性の方が男性よりも不安感は強い。また、65歳以上74歳以下では「該当する人はいない」が男性で73.1%、女性では91.1%に急増する。配偶者の両親が死亡等で介護対象者が減少するため配偶者の両親の介護に対する不安感は他の年齢階層よりも大幅に後退する。

Q36_3_2 あなたは将来、家族とご自分の介護についてどのように考えていますか。以下の項目について、あてはまるものを選んでください。/配偶者の両親の介護(SA)

	全体	第2号							
		男性 35～44歳	男性 45～54歳	男性 55～64歳	男性 65～74歳	女性 35～44歳	女性 45～54歳	女性 55～64歳	女性 65～74歳
n =	5,000	749	644	501	617	400	347	243	259
1 大変不安である	10.0%	8.1%	9.6%	7.2%	2.9%	14.5%	10.7%	11.1%	1.5%
2 少し不安である	23.3%	29.4%	33.2%	28.7%	9.7%	26.3%	23.3%	13.6%	2.7%
3 あまり不安はない	14.4%	20.2%	20.3%	15.6%	10.0%	13.8%	12.7%	10.7%	4.2%
4 まったく不安はない	4.5%	5.7%	3.4%	5.4%	4.2%	6.0%	5.5%	4.1%	0.4%
5 該当する人はいない	47.8%	36.6%	33.4%	43.1%	73.1%	39.5%	47.8%	60.5%	91.1%
DI	19.0	18.5	19.5	19.2	7.0	26.8	21.5	16.7	1.2

12.5 自分自身の介護

将来、自分自身の介護についてどのように考えているか(Q36_3_3)を尋ねたところ、調査対象者全体の介護不安度判断DIは全体として32.7ポイントであった。

¹⁴ 本稿の介護不安度判断DIは次のように算出。「大変不安である」回答割合+「少し不安である」回答割合*0.5-「あまり不安はない」回答割合*0.5-「まったく不安はない」回答割合。

専業主婦（第3号）を含めて女性の方が男性よりも自分自身の介護に対する不安感は強い。配偶者がいる場合に、配偶者に先立たれて女性（妻）が一人残る可能性の方が、男性（夫）が一人残る可能性よりも高いことが背景にあると思われる。

Q36_3_3 あなたは将来、家族とご自分の介護についてどのように考えていますか。以下の項目について、あてはまるものを選んでください。／ご自分の介護（SA）

	全体	第2号							
		男性 35～44歳	男性 45～54歳	男性 55～64歳	男性 65～74歳	女性 35～44歳	女性 45～54歳	女性 55～64歳	女性 65～74歳
n =	5,000	749	644	501	617	400	347	243	259
1 大変不安である	17.5%	14.4%	14.4%	16.6%	14.3%	17.8%	22.8%	22.6%	24.3%
2 少し不安である	42.4%	35.5%	38.5%	39.3%	42.5%	43.8%	47.8%	44.0%	40.9%
3 あまり不安はない	23.9%	26.4%	30.0%	27.5%	24.5%	23.3%	18.4%	19.3%	20.8%
4 まったく不安はない	5.9%	9.9%	5.3%	5.8%	7.6%	4.8%	2.9%	4.5%	3.1%
5 該当する人はいない	10.2%	13.8%	11.8%	10.8%	11.2%	10.5%	8.1%	9.5%	10.8%
DI	32.7	28.8	24.0	28.2	30.9	32.8	40.3	39.5	37.5

	第3号 全体	第3号 35～44歳	第3号 45～54歳	現・前第3号 55～64歳	前第3号 65～74歳
n =	1,240	353	305	279	303
1 大変不安である	19.0%	17.3%	24.3%	16.8%	17.8%
2 少し不安である	47.8%	47.0%	47.5%	53.0%	44.2%
3 あまり不安はない	20.8%	23.5%	17.4%	19.0%	22.8%
4 まったく不安はない	5.2%	6.8%	4.3%	3.9%	5.3%
5 該当する人はいない	7.2%	5.4%	6.6%	7.2%	9.9%
DI	37.7	35.8	43.6	37.8	33.8

12.6 配偶者の介護

将来、配偶者の介護についてどのように考えているか（Q36_3_4）を尋ねたところ、調査対象者全体の介護不安度判断 DI は全体として 25.7 ポイントであった。

専業主婦（第3号）を含めて女性の方が男性よりも不安感は強い。男性（夫）の介護は女性（妻）が中心になって行わざるを得ない状況が背景にあるとみられる。

Q36_3_4 あなたは将来、家族とご自分の介護についてどのように考えていますか。以下の項目について、あてはまるものを選んでください。／配偶者の介護（SA）

	全体	第2号							
		男性 35～44歳	男性 45～54歳	男性 55～64歳	男性 65～74歳	女性 35～44歳	女性 45～54歳	女性 55～64歳	女性 65～74歳
n =	5,000	749	644	501	617	400	347	243	259
1 大変不安である	13.9%	8.5%	9.5%	12.2%	13.6%	12.3%	13.0%	17.7%	15.4%
2 少し不安である	33.2%	24.4%	28.1%	35.5%	36.8%	26.5%	26.5%	29.2%	26.3%
3 あまり不安はない	20.6%	22.4%	26.6%	22.2%	22.0%	18.8%	14.7%	14.4%	16.6%
4 まったく不安はない	5.5%	7.1%	5.0%	6.8%	7.1%	4.5%	5.2%	3.7%	1.9%
5 該当する人はいない	26.7%	37.5%	30.9%	23.4%	20.4%	38.0%	40.6%	35.0%	39.8%
DI	25.7	16.6	15.2	25.6	28.1	20.6	24.1	28.8	22.2

	第3号 全体	第3号 35～44歳	第3号 45～54歳	現・前第3号 55～64歳	前第3号 65～74歳
n =	1,240	353	305	279	303
1 大変不安である	20.0%	19.0%	24.9%	19.0%	17.2%
2 少し不安である	44.8%	45.9%	43.0%	49.1%	41.3%
3 あまり不安はない	19.4%	22.1%	20.3%	16.5%	18.2%
4 まったく不安はない	5.1%	7.4%	4.3%	3.9%	4.3%
5 該当する人はいない	10.7%	5.7%	7.5%	11.5%	19.1%
DI	37.7	38.2	40.5	39.2	33.0

12.7 自分の介護を任せる先

自分の介護を誰にしてもらいたいか(Q36_4)を尋ねたところ、調査対象者全体では「まだ考えていない」36.4%、「介護施設に入る」24.1%、「配偶者」22.3%、「介護サービスによる在宅介護」9.7%の順であった。

男性は「配偶者」が多い一方、専業主婦(第3号)を含めて女性は「介護施設に入る」が多い。男性(夫)は妻に自分の介護を期待し、夫に先立たれる可能性が高い女性(妻)は施設に入ることを想定している人が多い。

Q36_4 あなたはご自分の介護を誰にしてもらいたいと思いますか。(SA)

	全体	第2号							
		男性 35~44歳	男性 45~54歳	男性 55~64歳	男性 65~74歳	女性 35~44歳	女性 45~54歳	女性 55~64歳	女性 65~74歳
n =	5,000	749	644	501	617	400	347	243	259
1 配偶者	22.3%	26.2%	28.6%	37.9%	40.2%	10.8%	10.1%	10.7%	13.5%
2 自分の息子、娘	6.0%	4.8%	4.2%	3.8%	4.1%	6.8%	6.1%	8.6%	6.6%
3 自分の息子の配偶者(嫁)	0.3%	0.5%	0.6%	0.2%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.0%
4 自分の兄弟姉妹	0.5%	0.5%	0.6%	1.2%	0.3%	1.0%	0.3%	0.0%	0.8%
5 介護サービスによる在宅介護	9.7%	6.8%	6.8%	8.2%	7.8%	13.0%	10.7%	11.5%	14.3%
6 介護施設に入る	24.1%	15.1%	16.9%	17.0%	17.0%	36.3%	34.6%	35.8%	30.5%
7 まだ考えていない	36.4%	45.0%	41.6%	31.3%	29.8%	31.8%	36.9%	32.9%	34.0%
8 その他	0.6%	1.1%	0.6%	0.4%	0.8%	0.0%	0.9%	0.4%	0.4%

	第3号 全体	第3号	第3号	現・前第3号	前第3号
		35~44歳	45~54歳	55~64歳	65~74歳
n =	1,240	353	305	279	303
1 配偶者	12.6%	13.3%	13.8%	10.0%	12.9%
2 自分の息子、娘	8.5%	8.2%	6.6%	9.7%	9.9%
3 自分の息子の配偶者(嫁)	0.3%	0.8%	0.0%	0.0%	0.3%
4 自分の兄弟姉妹	0.3%	0.3%	1.0%	0.0%	0.0%
5 介護サービスによる在宅介護	11.9%	10.5%	11.1%	10.8%	15.5%
6 介護施設に入る	29.4%	29.2%	27.9%	33.7%	27.1%
7 まだ考えていない	36.3%	37.7%	39.0%	34.8%	33.3%
8 その他	0.6%	0.0%	0.7%	1.1%	1.0%

13 おわりに

仕事面では賃金に対する不満が強い。この点は、経済的なゆとりに欠けることや、暮らし向きについて「普通」に次いで「少し苦しい」が多いことと整合的である。老後生活資金の原資は公的年金が柱ではあるが、不足分は可能な限りいつまでも働いて収入を確保したいという意向にもつながる。

一方、休暇の取りやすさや家庭と仕事の両立、職場環境などの仕事面の満足度は高い。自由時間をある程度確保でき、「ネットやSNS」「趣味」などをひとりまたは配偶者・家族と楽しむライフスタイルが主流である。それに対して、グループや集団で行動し、自由時間を共に過ごすことは少ない。社会活動は60歳代に入ってから参加する人が少しずつ増える程度である。生きがいを持っている人は半数に満たない。自由時間が確保できても生きがいを持つことにつながっていない現状がある。

長寿社会が到来した今日、必ずしも経済的なゆとりが十分でなくとも、自由な時間を使って生きがいを見つけるとともに、社会活動に参加するなどして心豊かな生活を送る方法

を見出していく必要があるのではないか。

介護の問題は多く報じられているが、女性に介護の重い負担がかかりがちで、特に精神的な負担が大きい。介護する人が孤立しないように公的機関も含めて相談できる場所や機会を増やすとともに、夫婦間で介護を含めた老後の生活について十分な話し合いを持つように努めることも重要であろう。

参考文献

シニアプラン開発機構（1992）『サラリーマンの生活と生きがいに関する調査—サラリーマンシニアを中心として』

シニアプラン開発機構（1997）『第2回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査—サラリーマンシニアを中心として』

シニアプラン開発機構（2002）『第3回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査—サラリーマンシニアを中心として』

年金シニアプラン総合研究機構（2007）『第4回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査—サラリーマンシニアを中心として』

年金シニアプラン総合研究機構（2012）『第5回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査—サラリーマンシニアを中心として』